

令和4年度 地域窓口サポーター活動状況

業務内容	令和4年度	
	選任職員数	60名
コミュニティ推進地区組織等の総会への出席	人数	22人
	団体	12団体
まちづくり懇談会への出席	人数	10人
	団体	5団体
その他の会議等への出席	人数	7人
	団体	4団体
要望等を受けた場合の所管課への取次ぎ	人数	41人
	団体	19団体
イベント等の視察による情報収集	人数	13人
	団体	8団体

地域窓口サポーターは市内30のコミュニティ推進地区に2名ずつ配置しています。



この取組のほか、「地域窓口サポーター研修会」の実施や、「地域担当職員通信」による活動事例の共有などを行っています。

新たな取組について

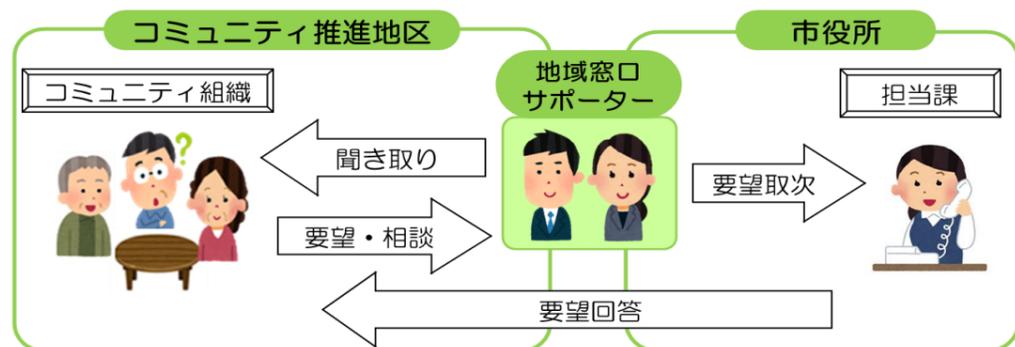
○地域窓口サポーターによる要望等の聞き取り

令和4年4月から新しい地域担当職員制度に移行しましたが、まちづくり懇談会等において、市職員と地域との更なる積極的な関わりを求める要望が複数寄せられたことを踏まえ、地域窓口サポーターの業務に「地域から要望等を聞き取る取組」を加えることで、市職員側から地域に関わる機会を設けるものです。

概要

- 1 電話等により、コミュニティ推進地区組織(30団体)の事務局へ、地域の要望事項や事業の様子などの聞き取りを行います。
- 2 地域との関わりが少なかった11月～2月の時期に2回行います。
- 3 原則、係長級の地域窓口サポーターが行います。
- 4 聞き取り結果を聞き取り票と業務報告書にまとめます。

[イメージ図]



つながるわ

地域担当職員の活動について

増刊号

発行：盛岡市市民協働推進課
〒020-8530 盛岡市内丸12-2
TEL：019-626-7535 (直通)
E-mail：kyodo@city.morioka.iwate.jp
(令和4年12月発行)

地域課題アドバイザー一本実施へ



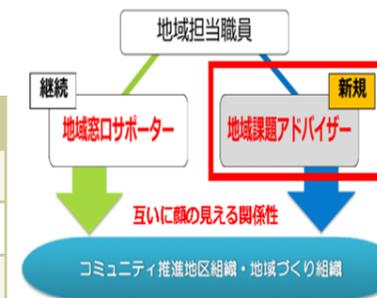
【渋民地区 防災マップ作成ワークショップ】

【本宮地区 交通安全マップ作成ワークショップ】

地域と盛岡市職員とが「顔の見える関係性」を構築するために実施している地域担当職員制度について、令和4年度から、従来の地域担当職員を「地域窓口サポーター」として継続するとともに、新たに地域課題を地域と一緒に考える地域担当職員を「地域課題アドバイザー」として要望に応じて配置する制度を試行から本実施へ移行します。

■ 試行結果

地区	地域課題	目標	地域課題アドバイザー	回数
本宮	交通安全	交通安全マップの作成	くらしの安全課 2名	3回
東厨川	災害対策	地区防災計画の作成	河川課 2名	2回
渋民	災害対策	地区防災計画の作成	(玉山) 総務課 2名	2回



各地区からは、地域課題アドバイザーの出席により会議やワークショップが円滑に進んだ、といった評価を得たほか、地域課題アドバイザーからも、本務にも有益になるとの意見が寄せられました。また、いずれの地区においても、地域課題の解決に向けた今後の進め方の道筋を定めることができました。

■ 利用方法

「地域課題アドバイザー」の派遣を希望する場合は、市民協働推進課 (TEL019-626-7535) へ御相談ください。派遣申請書は、右のQRコードから盛岡市HPの「地域課題取組チーム派遣申請書」を取得し、必要事項を記入して、市民協働推進課まで提出してください。支援対象組織は、コミュニティ推進地区組織 (30組織) と市の指定を受けた地域づくり組織を想定しています。



地域窓口サポーターが行く！

～地域の活動紹介～



地域窓口サポーターが、各地区でのイベントに出席し、イベントの様子や地域活動の取材を行いました。その内容を一部ご紹介します。

東厨川地区 | 地区防災訓練

地域窓口サポーター 清水 治・畠山 憲子



10月2日、厨川地区児童・老人福祉センターで、東厨川地区福祉推進会（佐藤栄一会長）主催の防災訓練が行われました。この訓練は、コロナ前は毎年300人ほどの住民が参加しており、住民同士の交流の場の創出にもつながっているなど、東厨川地区を代表する取組の一つとなっています。

コロナ禍（R2・R3年度）においては人数等を縮小しながらも実施を継続しており、防災意識の高い地区であると感じられました。訓練後、会長から当地区は北上川のほか木賊川などの河川もあり溢水による数回の水害も過去にあったと説明を受け、地区住民は水害に対する警戒意識が高く、それが訓練実施にも反映されていると感じました。

青山地区 | 認知症声かけ・保護訓練

地域窓口サポーター 野中 隆・山本 健太



10月21日、西青山一丁目・南青山町内を会場に、青山地区活動推進会、青山地区まちづくり協議会、青山和敬荘地域包括支援センターの共催で、青山地区認知症声かけ・保護訓練が行われました。訓練は、参加者32人が8グループに分かれ、歩いている認知症高齢者役に声をかけて保護場所に誘導し、警察に通報するまでの一連の流れについて、疑似体験するものです。

同行していた盛岡西警察署生活安全課の方によると、「同じ場所を何度も行ったり来たりするなどの行動を目にしないと、認知症高齢者だとは分からないだろう。それらしい方を見つけたら、声をかけないとしても、警察に連絡して欲しい。」とのことであり、今後心がけたいと思いました。

乙部地区 | グラウンドゴルフ交流大会

地域窓口サポーター 坂本 淳・北館 広光



10月11日、大ケ生の中虫壁グラウンドゴルフ場にて、乙部地区グラウンドゴルフ交流大会が行われました。主催は、乙部地域協働のまちづくり事業推進委員会（佐々木章一会長）。乙部地区の老人クラブを中心とした、グラウンドゴルフ愛好者約45名が大会に参加し、交流を深めました。

当地区では、グラウンドゴルフ場が整備されたこと、市内各地で大会が開催されるようになってきたこと、ルールが簡単で誰でも楽しみながらプレーができることなどから、グラウンドゴルフが普及してきているそうです。感染防止対策を徹底しながら地域での大会を積極的に開催していくことは、「生きがいづくり」という点からも大切なことと感じました。

城南地区 | 文化講座「昔語りを聞く会」

地域窓口サポーター 高橋 智巳・及川 梢



10月25日、山王老人福祉センターで、城南地区地域づくり委員会（泉澤力委員長）主催のR4年度第3回文化講座が開催されました。この講座は、城南地区の自然、歴史及び文化等の地域資源の情報を集約して作成した「城南地区マップ」に掲載されているウォーキングコース毎に、住民へ「昔語り」を行い、その内容を冊子にして現地散策し、歴史・文化をより詳細に伝えようとする取組です。

花田陽子講師による盛岡弁での語りは、笑いあり、驚きありの内容で参加者を魅了し、回を重ねるごとに参加人数が増えています。幅広い世代が地域に興味を持つきっかけになると感じ、継続して取り組んでいただきたいと思います。

本宮地区 | ゆいっこセンターまつり

地域窓口サポーター 滝村 敏道・田村 大輔



10月15日・16日、本宮地区児童・老人福祉・活動センターで、本宮地区福祉推進会（長岡利明会長）主催の本宮ゆいっこセンター祭りが開催されました。このお祭りは、盛南開発の進展により新住民が著しく増えていることを踏まえ、本宮地区の住民同士の交流を目的として、H24年度から続く取組となっています。

R3年度は、コロナ禍の影響により物販・飲食ブースを取り止め、規模を縮小しながら実施しましたが、R4年度は、物販・飲食ブースを確保し、開会式から多くの住民が来場しました。ステージ発表では出演者、観覧者とも笑顔があふれ、待ち望んでいた賑わいと交流の場になっていることを強く感じました。

仙北地区 | 地区文化祭

地域窓口サポーター 小原 輝司・小澤 敦子



10月29日・30日、仙北地区活動センターで、仙北地区社会教育福祉推進会（中村一会長）主催の第36回仙北地区文化祭が開催されました。この文化祭は、仙北地区の文化活動を高めるとともに地域コミュニティを育てることを目的としております。

仙北小学校マーチングバンドクラブのセレモニーによりステージ発表が始まりました。作品は、1階の全フロアで飾られ、以前から好評だった「がんづき」「おこわ」の販売は直ぐに完売しました。R2・R3年度は、コロナ禍を考慮し、中止しましたが、R4年度は、文化祭が途絶える危機感と子供達の記憶に残したいとの気持ちから開催を決定したものです。伝統とコミュニティのつながりを守る強い思いが伝わりました。